

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	鈴鹿市第1療育センター		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 9 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和 7 年 12 月 8 日		～ 令和 8 年 1 月 9 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 16 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種(言語聴覚士・作業療法士・理学療法士)による個別訓練を実施している。	・お子さまの特性に応じた対応を行い、必要に応じて訓練士が個別訓練を実施している。また、友達関係や学校生活、日常生活における困り感についても支援できるよう関わっている。	・各職種が研修を受講することで自己研鑽を積むとともに、適宜伝達研修を行い、職員全体のスキル向上を図っていききたい。また、療育会議において関わり方を共有・統一し、利用児の発達を総合的に促せるよう話し合いの場を大切にしていきたい。
2	・小学校1年生という生活環境が大きく変化する時期においても、児童発達支援から放課後等デイサービスへ切り替える際に場所の変更がなく、慣れた環境で安心して療育や訓練を継続できている。	・保護者様から日頃の様子や家庭での状況を聞く機会を、できる限り設けるよう努めている。	・療育時間中に職員も同席し、保護者様同士が気軽に語り合える場を設けることを検討していききたい。
3	・療育遊具が充実しており、子どもの目的や活動内容に応じて柔軟に活用している。	・目的に応じてさまざまな活動を提供できるよう、プログラム内容を検討している。	・職員間での意見交換や情報共有を継続し、より良い療育プログラムの検討につなげていききたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・集団療育および作業療法の個別訓練が小学校1年生までを対象としているなど、支援できる年齢・対象者が限定的である。	・人員や部屋数といったキャパシティの制約により、対象年齢の拡大や支援期間の延長が難しい状況にある。 ・年々他事業所の放課後等デイサービスが増加しており、療育センターで集団療育を行う意義が感じにくくなっている。	・個別性に配慮した支援を心掛けるとともに、必要に応じて次の支援先を紹介できるよう、相談支援専門員と連携を図っていききたい。 ・保護者様と十分に話し合いを行い、安心して卒業を迎えられるよう支援していききたい。 ・療育センター内での支援に限らず、他事業所へ外向きスーパーバイズ機能を果たすことで、地域全体の放課後等デイサービスの質の向上につなげていききたい。
2	・個別訓練の予約希望が特定の時間帯に集中することが多く、希望に沿えない場合がある。	・他事業所を併用して利用しているケースも多く、時間調整が難しい状況がある。	・療育センターで集団療育を行う意義や役割について、保護者様や関係機関に理解していただけるよう、情報発信に取り組んでいく。